

【配布用】2026 年度活動方針策定に向けて

1. 2026 年度活動方針策定に向けた環境整理

【社内環境】

- 2026 年新中期経営計画の策定
- 戦略的パートナーとの連携によるヨーク・ホールディングスとしての経営スタート
- Will Change EBITDA 目標達成最終年度
- 将来を見据えた新人事処遇制度の策定、各種基幹システム構築
- 生産性向上施策の推進
- 社内コミュニケーションの充実
- 褒める企業風土の構築（Will Change Award）
- 新エンゲージメント向上委員会の活動開始
- 多様な働き方への対応
- リスクマネジメント／企業コンプライアンスの観点からの労務・就業管理の徹底
- 人材確保・人手不足への対応
- 屋号間を越えた人材交流の促進
- SCL を含めた労働環境の変化

【労組環境】

「新生イトーヨーカドー労働組合 活動初年度」

- 組合員にとって魅力や価値を感じられる活動策定
- 2つの組織文化を尊重した新たな組織運営
- 約 200 支部の新たな組織体制による運営
- 「一支部一組合の確立」に向けた支部に基点を置いた活動策定
- 多様な組合員が参画した支部組織体制の確立
- 現場力向上 = 生産性向上につながる活動の策定
- 労働環境改善に向けた定例的な労使協議の開催
- 持続的な組合員の幸せ実現につながる、安全・安心な社会と暮らしづくりの推進
- 新人事処遇制度策定及び正しい周知
- 情報宣伝活動（機関誌・紙媒体・デジタルツール）の再構築
- 新たな福利厚生事業の構築
- 中長期を見据えた VISION（仮称）の策定

2. 新生イトーヨーカドー労働組合の目標・理念（6月 19 日(木)臨時中央大会にて確認された項目）

「一支部一組合の確立」

- 組合員の幸せ実現に向けて、支部組織が自主的に活動すること
- 組合員にとって一番身近な組織・組合活動であること
- 組合員を取り巻く職場環境に対し、支部労使で協議・解決すること

3. 2026 年度活動方針骨子について

《新生イトーヨーカドー労働組合としての活動計画策定にあたり、ポイントとなる3つのコミュニケーション》

- (1) 支部役員同士のコミュニケーション
- (2) 組合員同士のコミュニケーション
- (3) 会社／経営とのコミュニケーション

《活動の柱としていく項目》

- 労働組合の存在意義である、「雇用の確保」「労働条件の維持向上」を通じた「組合員の豊かな暮らしと幸せ実現」をめざした活動
- 組合員が気軽に相談でき、職場（支部）の問題を解決できる活動
- 新生イトーヨーカドー労働組合として約 18,000 名の組合員を擁することで得られる交渉力や現場力を高めることのできる活動

《支部活動の中で重点としていく項目》

- 支部役員同士が日々コミュニケーションを図れる活動／○組合同士の対話が活発になる活動
- 組合員同士が交流し、仲間の絆を深める活動／○組合員の声を会社に伝える活動
- 労働組合の活動が見える活動

《支部活動と連携した中央活動の中で重点としていく項目》

- 地域単位におけるお世話活動の充実／○健全な労使関係と魅力ある労働条件の充実
- 自助・共助による生活安心の推進

支部集会では点線の枠で囲んでいる項目に関して、皆さんからご質問・ご意見をいただきます。

皆さんから挙がった質問・意見については、9/22（月）開催の「全国支部執行委員長会議」で確認していきます。